

巻 頭 言

Foreword

総合技術部長 上 田 利 器

Riki Ueda

Chief of Central Technical Dep't.

当社は戦前から電機産業の一環として、重電機部門、商品部門とあわせて当時弱電部門と称されていた今日の計測部門、すなわち電気計測器、工業計器の生産に携わってきた。戦後あらゆる産業における急速かつ高度の発展は主として各種装置、設備の自動化、すなわちオートメーションなる言葉によって代表される近代化、合理化によって推進されてきたものといえよう。ことにプロセス工業においては、計装機器、計装技術のめざましい発達が大いにその推進に寄与してきたものと考えらる。この分野における技術は今後もさらに進歩発達を続けていくであろうが、近代工業計装の基本である小形空気圧式機器と電子式機器の完成によってほぼ一時期を画したといえよう。

われわれは数年前新しい工業計器シリーズとして、テレパーム・テレニュー方式を完成し、新時代の要請に応じたのであるが、これらは各種産業の各様のプロセス計装に適することを前提に開発されたもので、すでに工業計測独自の需要において多くの実績を得てきている。

当社はまた水・火力の発電プラント、あるいは鉄鋼、化学その他の各産業プラントの機器、設備を製作納入してきているが、今日いずれのプラントにおいても計測と制御とは不離の関係にある。幸い計測部門をあわせもつ当社では、これら両者の技術をきわめて合理的に融合を図り、最も望ましい形の結びつきを完成できる態勢にあり、この面でもテレパーム・テレニュー方式との組合せは多くの成果をあげてきている。

テレパーム・テレニュー方式およびこの方式による計装実例については過去本誌上でたびたび発表する機会を持ったが、今回各産業における数多の実績を加味して、この方式を根幹とした計装技術の応用特集号を発刊した。代表的な産業部門別として、各産業でいかに使われているか、また、いかに使ったら良いかということをご紹介したつもりであるが、ご使用者側のご参考になれば幸甚であるとともに今後とも本方式の発展についてご支援を希望する次第である。



*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。